

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日(火)
対 象 第1学年1組 37名
授業者 教諭 石川 遥佳
会 場 5階1年1組教室

1 単元名 用途に応じた食品の選択 『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』（東京書籍）

2 単元の目標

- ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解している。
- ・食品の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考査したことを論理的に表現するなどして課題を解決できる。
- ・よりよい食生活の実現に向けて、用途に応じた食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Cグループ：生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

Cグループのテーマ「生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫」に沿って、①生徒の日常生活の中から課題を設定させること、②協働的な学習を通して多様な意見に触れ、分からぬことが分かるようになつたり考えを深めたりできること、③自分や家族の生活にどう活かし、実践につなげるかを考えさせている。

(2) 本時の工夫

本時では①自分の食事の振り返り、自分の食生活と学習内容を結び付けること、②協働的な学習をすること、③自分の食生活にどう活かすかを考えさせることが工夫点である。

4 本時（全3時間中の第3時）

(1) 本時の目標

用途に応じた食品の選択について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、よりよい食生活の実現に向けて、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手立て

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 10分	<p>○自分の最近の食事を振り返る。 ○前時の学習を振り返る。 ○本時の学習内容を確認する。</p>	<p>○最近の食事の中で使われている加工食品とその特徴を確認させる。</p>
		<p>目標：用途に応じて食品を選べるようになろう。</p> <p>○自分の食生活で使われている加工食品はどのような用途（目的）で使っているか、他の場面ではど</p>

		のように加工食品が活用できるか考えられるようになることを目標とする。
展開 1 15 分	<ul style="list-style-type: none"> ○さばの味噌煮の調理方法を視聴する。 ○さばの味噌煮について、加工食品を購入する場合と生鮮食品を用いて自分で作る場合を比較する。 ○生鮮食品と加工食品のメリットとデメリットについて考える。 ・シンキングツールを活用し、生鮮食品と加工食品の特徴を書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理工程や材料がシンプルであることを確認させる。 ○実物教材(さばの味噌煮の缶詰やチルド食品など)を使用し、生徒の興味・関心を高めながら、自分の日常の食生活と結び付けて考えさせる。 ○健康(栄養)、調理の手間、保存、環境への負荷、食文化の伝承、価格など様々な視点で比較させる。 ○生活の中で活用する場面を想像させながら、生鮮食品、加工食品のそれぞれのメリット、デメリットを挙げさせる。
展開 2 15 分	<ul style="list-style-type: none"> ○用途に応じた食品の選択についてグループで話し合う。 ○グループで話し合った内容をクラス全体に発表し共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班ごとにテーマ(健康、調理の手間、保存、環境への負荷、食文化の伝承など)を与え、生鮮食品と加工食品のどちらがよいか、どのような組み合わせ方がよいかなどをまとめさせる。 ○テーマは、生鮮食品と加工食品のよさを、展開1で生徒が記述した内容から設定する。 ○生鮮食品と加工食品は、用途に応じて選択すること、選択する際は様々な視点(健康、調理の手間、保存、環境への負荷、食文化の伝承など)で検討するとよいことを確認する。
まとめ 10 分	○自分自身の食生活においてどのように食品を選択していきたいかをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○話合いや発表の内容を踏まえて、場面によって選択する食品が変わることを記述させる。選択の理由を書かせる。 ◆主体的に学習に取り組む態度<ワークシート> よりよい食生活の実現に向けて、課題解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

理科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第1学年2組 37名
授業者 教諭 藤原 淳治
会 場 5階1年2組教室

1 単元名 第1章 光による現象 『未来へひろがるサイエンス1』（啓林館）

2 単元の目標

- ・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきに関する基本的な知識・概念や原理・法則などの規則性を理解している。また、科学的に探究する上で必要な観察器具・実験装置の基本操作や特性の理解、記録法などの基本的な技能を身に付けている。
- ・光について問題を見いだし、論理的な仮説に基づく見通しをもって観察・実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきの規則性や関係を見いだして表現することができる。
- ・光に関する事物・現象に進んで関わり、理解を深めるために見通しを立てたり、自身の取組を振り返ったりするなど、科学的な探究に自ら粘り強く取り組んでいる。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

研究主題の実現には、学びに向かうきっかけや流れを、特別な行為や難しい行為ではなく、誰もが日常的に行う行為として定着させることが重要であると考え、次の二つの取組を行っている。

一つは、一課題に対し二段階で評価ポイントを設定することである。「評価基準の提示」として、自らの考えを示す課題では、「提案」の段階だけで学習・評価を完結させず、ＩＣＴ機器を活用した共有と検討の過程を通し、「選択・改善」との二段階で評価を行うことを示している。このような診断的評価の要素を、学習の進捗に応じた意識の切り替えにつなげ、失敗を恐れずに課題と向き合う意欲を高めるとともに、苦手な内容や誤りに対しても協働して改善することを促している。

もう一つは、単元の導入や探究活動における見通し段階の評価の重視である。特に、探究活動では、前時の後半を事前学習とし、前段の学習と関連付けた課題の提示と仮説設定の時間を設定している。この活動をふまえた実験方法の調査を事前課題とすることで、見通しのある探究活動とともに、事前の見通しをもつことが学習の理解に大きな効果を及ぼすことの実感を高めている。

(2) 本時の工夫

本時は、「光による現象」単元の導入内容であり、第1時で復習する「光の進み方」と「物の見え方」をふまえ、「光が曲がる場面」で起こる現象や見え方を検討することにより、反射・屈折・凸レンズという、光の学習の重要な要素の原因やしくみについて見通しをもたせる。また、この見通しから、これらが一連の現象として認識できるようにし、系統性・連続性のある学びになるよう促す。

4 本時（全8時間中の第2時）

(1) 本時の目標

段階的かつ協働的な学習を通し、光が直進しないときに生じる現象とその実験方法について、見通しを立て、適切に仮説を設定することができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等 (生徒)	○指導・援助 (教員) ◆評価<方法>
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習内容を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ものが見えるしきみ ・光の直進性 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のワークシートや、生徒がロイロノートで提出した内容を利用し、本時の学習に必要な情報を確認させる。
展開 40分	<p style="text-align: center;">目標：光が直進しないときに生じる現象とその実験方法について、見通しを立て、適切に仮説を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○光が直進しなかった場合に生じる現象を、主観的な視点と客観的な視点からそれぞれ検討する。 ○発問①に対し、予想される現象をロイロノート上で提案する。 ○グループでの検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・共有された発問①の提案内容を読み、全体での検討対象にする現象を数個選択する。 ・3～4人のグループを作り、発問②に対し、選択した現象の原因となる光の進み方を、デジタル機器を使用せずに検討する。 ・検討した内容を各自で持ち帰り、仮説の表現でロイロノート上に整理して提出する。 ○鏡や様々な光学レンズを通した際の、ものの見え方や光の進み方の変化を、実物を通して検討する。 ○発問②に対して作成した仮説が適切かどうかを検討し、加筆修正する。 	<p>○本時の評価は、正解ではなく、適切な検討と説明を行っているかどうかであることを共有する。</p> <p><u>発問①『光が直進しなかったとき、私たちはどのような現象として認識するだろうか。』</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自身の生活体験と結び付けて考えるよう促す。 ○その現象が生じたと考える場面を例示させる。 ○発問②の客観的な検討につながるよう、生徒からの提案内容を全体で共有して視野を広げさせる。 <p><u>発問②『①で挙げた現象は、光がどのように進んだときに生じるだろうか。』</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○前提として、人間は光が直進していると認識することを再確認する。 ○発問②に対する回答は仮説の表現で示させ、書き方を確認させる。 <p>◆思考・判断・表現<ロイロノート></p> <ul style="list-style-type: none"> A : 身近な光の現象と光の進み方の関係を、合理的かつ適切な表現で予想することができる。 B : 身近な光の現象と光の進み方の関係を、合理的かつ適切な表現で予想しようとする。 C : 予想を表現することができない。 <p>○自力で表現することが難しい生徒には、他者のまとめも評価することを示し、取り組みを促す。</p> <p>○実際の現象と比較して仮説を再検討させ、提出した仮説を加筆修正させる。</p> <p>◆思考・判断・表現<ロイロノート></p> <p>評価①と同様の評価項目・評価基準で、加筆修正後の内容を比較評価する。</p>

まとめ 5分	○今後の学習内容とねらいを理解し、学習の見通しを立てる。	○全体発問で本時の要点を言語化させる。 ○鏡や凸レンズを提示し、今後の見通しを共有する。
-----------	------------------------------	---

理科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第1学年3組 37名
授業者 教諭 中川 瑠星
会 場 5階1年3組教室

1 単元名 2章 音の大小と高低 『未来へひろがるサイエンス1』（啓林館）

2 単元の目標

- ・音に関する事物・現象を日常生活と結び付けながら、音の性質について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・音について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究できる。
- ・音に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究できる。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

毎授業の冒頭に本時のめあてを提示し、その時間に身に付けてほしい学習内容を明確にしている。また、生徒が取り組むワークシートの評価基準を説明し、気を付けるポイントなどを共有することで、生徒は学習に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度を養うことができると考える。

（2）本時の工夫

何を明確にするために実験を行うのかを提示し、ワークシートの評価基準をロイロノートで配信することで、生徒が学習に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度を養うことができると考える。

4 本時（全2時間中の第1時）

（1）本時の目標

音についての実験を行い、音の大きさや高さは発音体の振動の仕方に関係することを見いだし、自分の言葉で説明することができる。

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手立て

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 8分	<ul style="list-style-type: none">○ロイロノートのテスト機能を用いて、前時までに学習した音の伝わり方について確認する。○本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none">○ロイロノートでテスト機能を実施し、問題ごとに解説を読ませる。○ロイロノートで本時のめあてを確認させる。

目標：音の大きさや高さはどのように決まるのかを理解し、自分の言葉で説明することができる。

展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ギターは6本の弦だけで多彩な音が出るのはどうしてかを考える。 ○個人で予想する。 ○班で共有する。 ・班で出た意見をまとめ、ロイロノートのカードにまとめて提出する。 ○全体で共有する。 ・ロイロノートの共有機能を使って、他班の意見と自班の意見を比較する。 ○実験方法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで配信された実験方法を確認し、グループで準備を行う。 ○実験を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・発泡スチロールの底に等間隔で線を引いた紙を置き、輪ゴムをかけて弾く。 ・輪ゴムの長さを変えたり、輪ゴムを引っ張って張り方を変えたりする。 ・輪ゴムのかけ方によって音の違いを確認する。 ○ワークシートに実験結果を記録し、課題に取り組む。 課題「音の高さと大きさはどのように決まるのかを説明しなさい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○動画でアーティストのギターソロを聴かせ、「ギターは6本の弦で多彩な音が出る理由」を予想させる。 ○個人で予想させる。 ○班で意見交換させ、班で出た意見をロイロノートで提出させる。 ・早くできた班には「どのように、それが正しいことを確かめることができるか」を考えさせる。 ○配信したカードを読ませ、実験方法を確認させる。 <p>◆思考・判断・表現<ワークシート> 評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A : 実験結果を根拠に、音の高さと大きさがどのように決まるのかを説明し、その規則性を正しく読み取っている。</p> <p>B : 実験結果を根拠に、音の高さと大きさがどのように決まるのかを説明している。</p> <p>C : 音の高さと大きさがどのように決まるのかを説明できていない。</p>
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの振り返り欄に本時の振り返りを記入する。 ○ワークシートを撮影し、ロイロノートで提出する。 	

国語科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第1学年4組 37名
授業者 教諭 山中 めぐみ
会 場 5階1年4組教室

1 単元名 今に生きる言葉 『国語1』（光村図書）

2 単元の目標

- ・漢文の訓読や文語のきまりを理解し、漢文を読み慣れる。
- ・故事成語について理解し、自分の生活と結び付けて考え、身近なものとして捉える。
- ・「矛盾」を音読し、漢文特有のリズムや言い回しに慣れ、漢文の世界に親しむ。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Aグループ：主体的な学びを促すための導入、問い合わせを工夫する】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

国語の授業については、日頃から面倒に感じていたり、後回しにしたりする生徒が多く見られる。そのため、単元の学習が他の教科の学習のどこに役立つか、将来のどういう活動に役立つかを説明するようにしている。

(2) 本時の工夫

日常の出来事を故事成語で表現する活動を通して、故事成語を「暗記すべきもの」から「身近なもの」へ生徒の価値付けを転換させる。また、クイズ問題を作成・解答する活動の楽しさを生かし、学習効果の向上を図る。

4 本時（全4時間中の第3時）

(1) 本時の目標

故事成語を自分の生活と結び付けて考えることで、より身近なものとして捉えることができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 5分	<ul style="list-style-type: none">○プリントを用いた漢字学習を行う。○学習内容・目標・活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none">○教材プリントを用いた漢字学習を行わせる。○楽しく学力を身に付けるイメージをもたせる。
展開 38分	<p>目標：生活の中での事例をイメージすることで、故事成語をより身近に感じることができる。</p>	
	<ul style="list-style-type: none">○グループで与えられた故事成語を用い、クイズ問題を作成する。	<ul style="list-style-type: none">○学びの工夫としてクイズ問題を作成することで、生活の身近なところにも故事成語が使える場面が

	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の意味や用法を、便覧などで確認する。 ・脚本形式で場面を作成し、クイズ問題に仕上げる。 	<p>あることを理解させ、身近なものに捉えさせる。</p> <p>◆知識・技能／思考・判断・表現＜ワークシート＞ 身近な場面を考えることで自分の生活と結び付けようとしているか。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○全体でクイズ大会を行う。 ・個人で、学習した故事成語の意味や用法を思い出しながら、正解を考え、答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズの答えを考えさせることで、自分の生活と結び付けて捉えさせる。 <p>◆主体的に学習に取り組む態度＜観察＞ 学習した故事成語と結び付けて答えようとしている。</p>
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○各班の発表場面を振り返り、故事成語が身近にあることを確認する。 ○学習前後の変化を踏まえて授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時を振り返り、故事成語が身近なものであることを認識させる。 <p>◆主体的に学習に取り組む態度＜ワークシート＞ 故事成語が身近なものであると捉え、理解を深めようとしている。</p>

保健体育科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第1学年5組 37名
授業者 主任教諭 杉村 泰文
会 場 格技室

1 単元名 「武道」柔道

2 単元の目標

- ・伝統的な行動様式に留意し、規則や決まりを守り、互いに相手を尊重し、公正な態度で練習や試合に取り組むことができる。
- ・対人的技能を定着させ、得意技を身に付けています。
- ・自分の能力に適した課題の解決を目指し、工夫して練習している。
- ・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようすること、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Cグループ：生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

学習カードを利用してスマールステップ方式で、チェックポイントを示し自分の課題とできたことが理解しやすいようにしている。

（2）本時の工夫

受け身の効率的な取り方について互いに確認し合い、技能を高め、適切な受け身ができるようになる。

4 本時（全8時間中の第3時）

（1）本時の目標

受け身（後ろ受け身・横受け身）を、安全かつ正確に取れるようにする。（技能）

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 10分	<ul style="list-style-type: none">○体育係の号令で集合・挨拶・出欠確認を行う。○本時の課題を確認する。○体操・ストレッチ・補強運動を行う。	<ul style="list-style-type: none">○気持ちを落ち着かせ、授業に集中させる。○本時で使う部分を重点的に、正確に行わせる。○準備運動の意図を理解して正確に行っているかを確認する。◆知識・技能<観察><ul style="list-style-type: none">・準備運動の意図を知り、正確に行っているか。

目標：受け身（後ろ受け身・横受け身）を正確かつ安全に取れるようにする。

展開 35分	<p>(1) 一斉練習 (2) グループ練習 (勢いを付けて)</p> <p>○一人1台端末を活用し互いに助言し、協力して活動する。</p>	<p>○受け身の要点を確認して示範する。 ◆思考・判断・表現<観察> •課題解決のために、分かりやすいアドバイスをしながら活動しているかを確認する。 ◆知識・技能<観察> •受け身の技能を高めことができたか。 ○安全に関する指導 •頭を打たないように目線に注意させる。 •畳をたたく手の位置に注意させる。 •友達にぶつからないようにさせる。</p>
まとめ 5分	<p>○集合・まとめ／次時の予定 •新たに習った技の要点を簡潔に確認する。</p> <p>○挨拶／解散 •服装を整え、座札を正確に行う。</p>	

技術・家庭科（技術分野）学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）
対 象 第1学年6組 37名
授業者 教諭 西澤 喜雅
会 場 5階1年6組教室

1 単元名 材料の加工の技術 解決策の構想（1）『新編 新しい技術・家庭 技術分野』（東京書籍）

2 単元の目標

- ・材料の特性や加工方法を検討できる。
- ・身近な製品（ティッシュケース）の製作を通して、製作品の構想をまとめている。
- ・材料と加工の技術による問題の解決に主体的に取り組んでいる。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Cグループ：生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

使用目的をもった製品の製作では、使用目的や使用条件を考えて使いやすい製品の設計を心掛けるとともに、製作体験や使用工具、技能などの条件を踏まえて設計を行う。単に加工技能の向上を目指すのではなく、完成した製品を使用する場面を想定し、素材の特性や製作工程と手順を考える場面を設定し、ものづくりのワークフローを考えられるようにしている。

（2）本時の工夫

中学校での製作加工の二作目である。第一作では設計の基本概念と安全対策、工具の使用方法に重点を置いたが、本作品では木目を生かした木取りや纖維方向による強度の違いといった木材の特徴を意識し、天板の取り出し口を使いやすく壊れにくい形に設計する。また、設計のために型紙を利用して対称形を正確に合わせる方法、複雑な形状を正確に転記する方法について学び、大量生産の手法やワンオフ製品の試作方法についても学ぶ。

4 本時（全6時間中の第1時）

（1）本時の目標

- ・板の木目を意識して、板の合わせ方が考えられる。
- ・使いやすい製品にするための考慮点に配慮して正しくけがける。

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 5分	○ティッシュケースの使用目的を考える。	○ティッシュケースの使用目的を考えさせる。 ○外寸を統一する理由を考えさせる。

目標：板の木目を意識して、板の合わせ方が考えられる。

使いやすい製品にするための点に配慮して正しくけがける。

展開 42分	<ul style="list-style-type: none"> ○天板の取り出し口として、ふさわしい形・使いにくい形・製作不可能な形を考える。 ○材料を二分割する際に、切り代・削り代が必要であることを確認する。 ○二分割した板を並べたときの天板の見え方で、考慮すべき点を確認する。 ○実際の使用を踏まえ、取り出し口の形状がふさわしいかどうかを考える。 ○対称形の取り出し口にする場合の転写方法として型紙の利用が適していることを理解する。また、二枚の板を同じ形に切断する方法についても考える。 ○天板の取り出し口のデザインを考える。必要に応じて型紙用の紙とはきみを用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の取り出し口のパターンを提示し、取り出し口としての適切さについて、理由とともに考えさせる（シルエットで考えるように指導する）。 ○切り代・削り代を考慮して材料を切断したときに得られる部品の大きさを検討させる。 ◆知識・技能＜観察＞ 加工の難易度や製品の強度 ○板材を並べるときに、木目を考えて仕上がりを検討させる。 ○デザインした取り出し口が実際の使用にふさわしいかどうかを検討させる。 ○対称形の天板の作成方法について考えさせ、転写方法や切断方法について考えを述べさせる。 ○以上を踏まえ、取り出し口の形状を決め、必要に応じて型紙を作成する。非対称形をデザインした場合も、型紙に下絵を描く（一人1台端末の利用可）。 ◆思考・判断・表現＜観察＞ 学習過程での検討・記録・説明の妥当性を観察する。
○ロイロノートのアンケートに答える。		<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノートのアンケートに答えさせる。 ◆主体的に学習に取り組む態度＜ロイロノート＞ ロイロノートの回答内容を確認する。
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ○規格製品の設計・製作に関する考え方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○製作品（実用品）の設計を通して、どの点を考慮してデザインするかを理解させる。